



日本靴小売商連盟 第56回通常総会開催

令和7年1月28日火曜日午後1時30分より、合同ビル3階の新しくなった会議室に於いて、日本靴小売商連盟・第56回通常総会が開催された。

開会にあたり、司会の松戸理事から、本日の参加者10名、委任状出席9名合計19名の参加と、定足数の確認が行われ総会の成立を報告した。

議長選出にあたり、規約により議長は会長が当たるとなっていますが、本日は小堤会長が欠席のため、常務理事の栗原氏が議長に就くことが承認され、総会が始まった。議長は議事録署名人に木内氏、中野氏を指名し異議なく承認され議事進行に移った。

第一号議案 令和6年度事業報告並びに決算報告承認の件
事務局の松戸氏、木内氏より

り総会資料の詳細な説明を行い、事業報告では、総括として「今期の日本経済は、円安進行で原材料費等のアップが続き製品の値上げが行われ売れ行き低迷が見られた。また異常気象により9月以降も残暑が続き、秋冬物の立ち上がりは厳しい状況であった。我が業界の決算見込みが出つつある中、早期の経済活動の正常化が進行し、速やかな景気回復を期待したい。日本靴小売商連盟としては傘下の各社が、消費行動の変化、消費者のニーズを捉え、これからの新しいライフスタイルに対応することを踏ま

一般社団法人
東靴協会
千代田区鍛冶町1-6-17
〒101-0044 ☎(3252) 5656
(2月号)



え、消費者の為なお一層のご協力をお願いするところであります」とした。

事業報告では、従業員表彰、機関誌「とうくつ」を始め「ジェイリアだより」等の配布及び情報発信、シニールライター養成講座、靴まつり他を行った。関連部門の日本靴連盟、日本皮革産業連合会、全日本履物団体協議会の委員会にも参加し、相互連絡を密にした。また、年賀ポスターの会員配布も実施した。決算報告では、貸借対照表、財産目録、損益計算書の説明が行われた。

続いて議長の指名により、監事の須藤氏より監査報告がなされた。場内に諮り一号議案は異議なく承認可決された。

第二号議案 役員改選の件
事務局より、本年度は役員改選の期にあたり、在京役員会で検討した人事案について議場に諮ったところ満場異議なく承認可決された。退任された方は、東條英樹理事、矢代裕夫顧問。新役員は後記の新役員名簿をご覧ください。

第三号議案 令和7年度事業計画及び収支予算案承認の件
事務局より配布資料の事業計画を読み上げ説明を行った。今期も依然として厳しい状況が続く中「消費者の真のニーズを捉えた商品提供」を軸に、次の取り組みを推進する。
① 特色ある商品の提供と差別化
② 固定客を増やすための販売員のホスピタリティー向上
③ 時代に合わせた魅力ある店づくり

とし、靴業界全体の発展と景気回復への貢献を目指す」と基本方針の説明をした。

具体的な事業計画としては
① 靴小売業の実態調査、従業員表彰、情報の収集・発信
② 流通秩序の改善やサービス向上の研究、人材育成
③ 業界関連団体との連携および折衝
④ 関係官庁との連携・折衝
⑤ 会員増強活動
また、新規事業として「フィッティングカウンセリング講座」の内容を拡充し、靴販売員のスキルアップを目指す講習会を継続的に開催する、などの事業計画は、場内に諮り承認された。

- 令和7年度 日本靴小売商連盟役員名**
- 会長・栗原 茂 (関東)
 - 副会長・友田 浩司 (北陸)
 - 副会長・木内 二郎 (関東)
 - 理事・兼松 孝次 (関東)
 - 理事・高橋 郁夫 (関東)
 - 理事・櫻井 貴浩 (九州)
 - 理事・岩井 久 (北海道)
 - 理事・大村 康郎 (近畿)
 - 理事・松戸 福治 (関東)
 - 理事・矢代 健二 (関東)
 - 理事・橋本 博文 (東北)
 - 理事・北城照二郎 (関東)
 - 理事・小堤 啓史 (関東)
 - 理事・小野 智広 (関東)
 - 監事・須藤 教夫 (関東)
 - 監事・青木 隆史 (関東)
 - 監事・田中 省一 (関東)
 - 顧問・小堤 幸雄 (関東)

理事会・支部連絡会

令和七年二月二十八日(火)

午後二時、西村記念ホール

出席者13名

司会の木内副会長より理事会の開始を告げ、栗原会長の挨拶に続いて議事に移った。

一、親和会総会について

松戸氏より親和会総会は2月18日・19日に箱根湯本温泉「河鹿荘」で行う予定。親和会会員以外でも参加希望者は事務局まで申し込みを、と説明し参加の要請をした。

二、事務局移転の報告について

事務所の移転作業については、5階から3階への移転作業は無事に終了し、総経費は457万円と報告された。

三、オンライン会議の対応

今後会議をオンラインでも行えるようオンライン会議対応のための機器（カメラ・スピーカー・マイク一体型）の導入を検討していくこととなった。

四、靴の記念日の催事について

靴の記念日の祭事（式典）は3月14日（金）に神田明神で行うことが承認された。記念日の催事のポスター等販

促物の確認を行った。

五、その他

事務局人材募集について

事務局員退任に伴い、新しく人材を募集することとなり、溝口氏が面接を通過し、二次面接のプレゼンテーションも評価されたため、会長による最終面接を行う予定となった。契約形態は有期契約で、試用期間を設けることとし、給与条件については会長とも相談し検討することとなった。

その後事務局より今後の予定が報告され、理事会は終了した。

今月の景気判断 2月

景気は緩やかに持ち直している。内需においては、雇用が改善し、名目賃金が増加する中で、物価高による実質賃金の低迷で弱含んでいた個人消費は、足元では持ち直しの動きがみられる。これに対して企業部門では、良好な業績を反映して景況感は回復傾向にある。また、企業の設備投資意欲は底堅く、価格高によるマイナスの影響や人手不足による供給制約がある中でも持ち直しの動きがみられる。外需においては、インバウンド需要は増加基調にあるうえ、米国を中心に海外経済は

持ち直しつつあるが、輸出は横ばいとなっている。一方、生産は均してみれば持ち直しの動きがみられる。

今後も景気は緩やかな持ち直しが続く見込みである。個人消費は、物価高への懸念、コロナ禍明け後のサービス支出の回復一巡がマイナス要因だが、名目賃金の増加が続き、物価上昇圧力が徐々に落ち着いてくることに合わせて消費者マインドも徐々に改善し、持ち直しの動きが続こう。さらに、企業の設備投資は、投資意欲が底堅く、今後も持ち直しが続き、景気を下支えすると期待される。

輸出も、自動車生産の回復や世界的な半導体需要増加を背景に持ち直している。また、日本銀行の利上げ後も金利上昇は小幅にとどまっており、実体経済への影響は軽微である。ただし、トランプ大統領による通商政策の行方、米中の貿易摩擦が再燃する懸念、地政学リスクの高まりなど、海外を中心に景気に対する不確定要素が多い。①物価上昇を背景とした消費者マインドの悪化、実質購買力の低下によって個人消費が落ち込む、②人手不足による供給制約に直面する、などの景気下振れ要因も多く、景気が減速するリスクは残る。

(三菱UFJリサーチ&コンサルティングHPより)

靴専門店・大手三社の直近3か月売上推移

《12月のコメント》

気温が下がり、東北、北海道を中心に積雪が見られ冬物商品を中心に売上が好調。

(チヨダ)

前年比で土曜が一日少なかったが、クリスマスプレゼントや年末セールでの売上が好調。ブーツ等冬物が好調に推移。(ABCマート)

全国的に寒い日が多く降雪エリアで防寒商品が好調。レイシニシューズ等冬の定番が苦戦した。(ジーフット)

《1月のコメント》
昨年より正月連休が2日早

東京都中小企業景況調査(11月) 業況：再び上向き 見通し：3か月ぶりに改善

卸売業			業況			
対象数	回答数	回答率	11月		今後3か月間見通し(当月比)	
875	329	37.6%	悪い	良い	悪い	良い
			-100	0	100	-100 0 100
衣料・身の回り品						
1.	男子	衣服				
2.	婦人	子供服				
3.	靴・履物					
4.	かばん・袋物					
5.	装身具・身の回り品					

東京都中小企業景況調査(12月) 業況：ほぼ横ばいで推移 見通し：わずかに下向き

卸売業			業況			
対象数	回答数	回答率	12月		今後3か月間見通し(当月比)	
875	345	39.4%	悪い	良い	悪い	良い
			-100	0	100	-100 0 100
衣料・身の回り品						
1.	男子	衣服				
2.	婦人	子供服				
3.	靴・履物					
4.	かばん・袋物					
5.	装身具・身の回り品					

東京都中小企業景況調査(11月) 業況：再び上向き 見通し：3か月ぶりに改善

小売業			業況			
対象数	回答数	回答率	11月		今後3か月間見通し(当月比)	
875	306	35.0%	悪い	良い	悪い	良い
			-100	0	100	-100 0 100
衣料・身の回り品						
1.	呉服・服地	寝具				
2.	男子	衣服				
3.	婦人	衣服				
4.	子供	衣服				
5.	靴・履物					
6.	かばん・袋物					
7.	雑貨・身の回り品					
8.	時計・眼鏡					
9.	ジュエリー・製品					

東京都中小企業景況調査(12月) 業況：ほぼ横ばいで推移 見通し：わずかに下向き

小売業			業況			
対象数	回答数	回答率	12月		今後3か月間見通し(当月比)	
875	308	35.2%	悪い	良い	悪い	良い
			-100	0	100	-100 0 100
衣料・身の回り品						
1.	呉服・服地	寝具				
2.	男子	衣服				
3.	婦人	衣服				
4.	子供	衣服				
5.	靴・履物					
6.	かばん・袋物					
7.	雑貨・身の回り品					
8.	時計・眼鏡					
9.	ジュエリー・製品					

社名	11月	12月	1月	
チヨダ	既存売上	8.4	12.6	3.7
	客数	0.3	4.9	-1.9
	客単価	8.0	7.2	5.7
ABCマート	既存売上	881	881	878
	客数	5.6	5.2	-1.6
	客単価	8.6	5.4	7.8
ジーフット	既存売上	1092	1093	1085
	客数	4.3	-6.8	-16.3
	客単価	0.0	-10.0	-17.9
	店舗数	638	638	631

(昨年同月対比%)

まり、冬物を中心に売り上げは伸長した。防水ブーツ・スニーカーを始め機能性防寒靴が好調。(チヨダ)
年始商戦や下旬からの旧正月需要があり好調に推移。北海道や日本海側の地域では降雪需要もあった。(ABCマート)
新しいPB商品「スニカルブーツ」を始めとしたカジュアルスニーカーが好調だったものの、冬の定番のウインター商品や長靴等の売上が大きく下回った。(ジーフット)